

# 教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 3 年 3 月 29 日

氏名 王 ギョク

所属 教育心理学 コース

指導教員名 遠藤 利彦

1. 研究課題 「家屋社会」に基づく母系摩稜人の子育て-養育環境と活動・養育観・子ども観-
2. 報告する学術活動の実施期間 令和 2 年 7 月 15 日 ~ 令和 3 年 3 月 28 日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
  - 国外 国内
  - ①英語論文公表
  - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
  - ③フィールドワーク
  - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
  - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
  - ⑥研究指導委託
  - ⑦留学
  - ⑧国際研修
  - ⑨国際インターンシップ
  - ⑩その他 (具体的に: )

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表  
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加  
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク  
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議  
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会  
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託  
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学  
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修  
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ  
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	⑤
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>【研究プロジェクトスケジュール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>研究会名</u>：2020年度発達保育実践政策学センター若手研究者育成プロジェクト</li> <li>○ <u>国名・都市名</u>：日本・東京</li> <li>○ <u>発表題目名</u>：「家屋社会」に基づく母系摩梭人の子育て・養育環境と活動・養育観・子ども観－</li> <li>○ <u>プロジェクトメンバー</u>：王 ギョク(代表研究者)、DUMALAMU(中国西南大学大学院 宗教専攻修士課程)</li> <li>○ <u>発表形式</u>：オンライン・口頭発表</li> <li>○ <u>発表年月日</u>：2021年3月17日</li> <li>○ <u>プロジェクト報告書提出年月日</u>：2021年3月26日</li> </ul> </li> <li>● <b>【発表内容と報告書の概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>【養育環境－家屋社会文化－】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 文献レビューによって得られた摩梭(モソ)人の子どもをめぐる養育環境に関する知見の整理(家屋文化・母系親族関係性・男性養育投資などの面から)</li> </ul> </li> <li>○ <b>【養育者－養育観・子ども観－】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「子どもへの期待」、「養育における重視」等の摩梭人の「養育観・子ども観」をインタビューデータから再整理・分析した結果の報告</li> </ul> </li> <li>○ <b>【養育行動－しつけ・子育て生活－】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「母系家族における養育行動」、「男性による養育行動」などの養育行動をインタビューデータから再整理・分析した結果の報告</li> <li>✓ 新型コロナウイルス自粛期間における家族での子育てや親子交流・活動等について、養育者(母系家族内・父親)と子どもを対象者としたインタビューの結果の報告</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。  
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。  
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。  
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

## 6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

### 【問題と目的】

摩梭人とは現存する人口数約5万の中国に遺存する母系社会集団であり、他の母系社会と異なり、一夫一妻の「sese婚」(visiting marriage)という婚姻制度をもち、男性は娶らず女性は嫁がず、出生児は母方に属し、生家で母親・兄弟・姉妹と姉妹の子どもたちと生涯ともに暮らす。摩梭の母系制はこの婚姻形態とそれに従ったシブリングベースト家族(sibling-based households)によって強く特徴づけられる(Nongbri, 2010)。

摩梭人の母系制・婚姻制・家族構造・親族の根源、構成、及び発展経緯を議論した研究成果が既に文化人類学の文脈で数多く発表されている(Gong & Yang, 2012; Suwa et al., 2000; 金縄初美, 2018)。その特徴的な背景をもつ摩梭人のシブリングベースト家族において、「父・母・子」という欧米を代表とする父系社会での普遍的な家族ユニットと異なり、母系的親族(祖母・母・オバ・オジ)が「養育集団」の中心となり、子どもの実父は「他家族の人」として子育てに参加することが知られている。だが、文化人類学における文化的定義の上、さらに摩梭大家族における具体的な養育行動、及び養育者における子ども観・養育観について検討した研究が不足であり(Mattison, 2010, 2011)、特に摩梭人個人の心理的レベルにおける養育の検討が少数で、ジェンダーをはじめとするマクロ的な問題の方が重要視されてきた。

摩梭の母系制度より摩梭人の家族属性を強調する「家屋社会(House Society)」理論(Hsu & Oppitz, 1998)では、摩梭社会を単に分離居住婚(duolocal residence)をもつ母系社会と認識することではなく、母系血筋より、社会構造主義に従った母系・父系併存する「家屋」を中心的組織単位とし、家屋のもとで各家族成員の役割を分配し、価値判断を行われるという理解を主張した(Liu, 2008)。

本研究は、「家屋社会」に基づき摩梭人の子育てに絞り、摩梭家屋における養育者の養育観念や養育行動、及び養育者としての子ども観や子どもの発達への評価を明らかにすることを目的とし、新型コロナウイルス自粛期間における子育て生活の検討も含めて母系大家族における子育ての仕組みのバリエーションを総括的に考察する。

### 【方法】

**対象者** 15名の摩梭人養育者を対象者とし(Male=3,  $M_{age}=40.63$ ,  $SD=6.67$ )、子育ての目標、重視、行動などを含めた養育に関するインタビューデータ(2019年8月)の再分析を行なった。また、新型コロナウイルス自粛期間における子育てや家族生活について、母親としての女性( $M_{age}=41.10$ ,  $SD=5.90$ )、母系オジまたは父親としての男性( $M_{age}=42.80$ ,  $SD=4.66$ )、子ども(Male=5,  $M_{age}=14.7$ ,  $SD=3.62$ )視点から出発し半構造化インタビューを行なった(2020年8月~2021年2月)。

**半構造化インタビュー** 第1部の摩梭人養育者の養育観や養育行動・子ども観に関して、養育での重視、子どもの存在への認識、子どもの発達に関する期待、パートナーにおける養育投資、子育てや生活への満足度などの項目が含まれた。第2部の新型コロナウイルス自粛期間における子育て・家族生活に関して、「自粛期間において家族とのやる事」、「子どもとの付き合い」、「コロナ禍による思考や認識」を共通質問項目として設置された上、「母・父」に対して「パートナーと会えない事情に関する認識」、「オジ/父としての男性」に対して「実子と会えない事情に関する気持ちや認識」、「姉妹の子どもと長時間一緒にいた事情に関する気持ちや認識」、「子ども」に対して「父親と会えない事情に関する気持ちや認識」という項目も設置された。

**分析** グラウンデッド・セオリー・アプローチ(Grounded theory approach:以下GTA)を用い(Corbin & Strauss, 1990)、オープン・コーディング(概念抽出)、アクシャル・コーディング(カテゴリーの関連づけ)、セレクトティブ・コーディング(ストーリーラインの作り)をMAXQDAソフトウェアで分析した。

### 【結果】

#### ● 養育目標と養育での重視

##### ○ 子どもの存在

子どもの存在を「Passing down the household」として認識している養育者が最も多かった(73.3%)。つまり、子どもを独立的な個体より、家族の一部として存在するという価値づけが共通している。ただ、「Raising children to prepare for old age」のような養育者個人の老後生活のためより、母系家族全体の継承のための次世代という理解がより適切であった。

##### ○ 養育目標と重視

「Traditional mosuo culture」、「Education」、「Physical health」、「Empathy for others」という養育の目

標と重視がまとめられた。摩梭の伝統文化は養育の基礎的ルールとして、個人の道徳的発達、向社会的性、他人との関係性を強調する。他の人の気持ちやニーズを敏感に感受し反応することも基礎的ルールと関連し特に養育者に重視されている。また近年、子どもの教育（学校教育と成績）も徐々に重視されてきた。

- 養育方法とサポート

- 養育方法

「Matrilineal family orientation」という中心的な原則と養育のもとで、「Working with children on tasks」, 「Care for children while working」の方法を用い、「Mother as an authority figure」, 「Guidance of elders」という重要メンバーによって「For children's study」, 「For children's discipline」という2方面の具体的な養育場面をまとめた。

母系家族を中心とする原則では、母系家族における次世代に向けて「無分別」的な情動的認識と経済的投資（生活費や生活用品の面を強調する）を要求され、個人の生活より母系家族に対する責任を優先する価値づけが認められている。家族に対する価値や役割のもとで個人の位置付けを行われ、養育者として、次世代に家族における品格を代表とする精神的財産と調和的世代関係性と家屋を代表とする物理的財産を継承させていくことが強調されている。

母系各大家族における養育者は、子どもの世話をするという専門的な時間帯や親子インタラクションを行う機会を作るという意識が弱く、養育者自身の家事やほかの事務をやりながら子の世話をするというのが一般的な形式である。また、子どもに身につける必要がある技術や、学んで欲しい礼儀などの教え事がある場合、「親子一緒にやる」、直接に教えるより「自分のやり方を見せる」という並行的方法を取る傾向がある。

母親として「子どものしつけにより厳格的」ということが多く報告された。特に子どもの学習についてより督促するようである。ただ、子どもの生活に対し、祖父母がより敏感的に観察し、対応していることも述べられた。

- 母系家族によるサポート

「Potential rules」, 「Someone who can always be consulted with」, 「Someone who always stands by」, 「Cooperative childcare」をまとめた。「Household leadership arrangement」, 「Treatment of everyone equally and favorably」, 「Opposition to exogamy with non-Mosuo girls」という家族に共通している規則に従い、祖父母層による子どもの世話をメインとする共同的次世代の養育を行うことが言える。

- 男性によるサポート

父親の養育サポートを母親視点からの評価が多かった（13名母親、2名母系オジ、1名父親視点）。母親として、養育に関する悩みを父親とシェアしコミュニケーションすることが少なく、子どもの学費などの生活費における支援を父親に期待されているようである。

「夫婦」の間に、経済が独立で、お互いに各自における母系家族に対する責任を尊重し受け止める（特に経済的な家族への支援）。非摩梭の男性と結婚した摩梭人女性から、姉妹の子どもへの経済的養育投資に対する不満が夫婦の間での最初の分岐点になったと報告したが、摩梭地域の居住年数につれて徐々に非摩梭の男性も認めてきた（経済的に妻の姉妹の子どもへ支援すること）と述べられた。

父親として、主に子どもの学校教育に関心が多く、学費を投資する。子どもとの活動では、身体的遊びをメインとし、父親によるしつけがやや少ない。また、父親として、相対的に緩和的、間接的なしつけを行う傾向がありそうである。

母系家族における権威のあるメンバーである母系オジの養育では、子どもの道徳、礼儀の面に間接的な関わりが多かったとも言える。特に他の家族メンバーが子どものしつけを行うときに、オジの名における権威を利用し子どもの行動を制約することが多い。また、母系オジも次世代の教育を強調するが、成績を重視する傾向がある父親と比べて相対的に高いレベルの教育を受けられて家族における知恵を強めること自体に重視するとも言える。

- 養育問題

- 「Self-education level limitation problems」, 「Children's schooling problems」, 「Limited energy problems」, 「Electronic media problems」という主要な問題を報告した。養育者自身の相対的に低い教育履歴が次世代の学校教育にネガティブな影響をもたらすという懸念が最も多く言及した。また、家事や家畜の飼育などの事情による負担が大きく、多忙な日常生活の中に子どもの学習への指導や督促をする余裕がないに関する困りもあった。そして、過去の子どもと比べ、電子的メディアによる影響も徐々に大きくなり、子どもの発達への負の効果を恐れるようであった。

- 摩梭人子どもと漢民族子どもへの評価

- 摩梭人子どもへの評価（関係性と個人特質）

ポジティブな点として、「Supportive family resources」(Free of mother-in-law and daughter-in-law issues; Solid family cohesion; Co-caregiver assistance), 「High empathy ability」が論じた。ネガティブな方面に関

して、「Not receiving adequate attention」, 「Easily spoiled」, 「Great ethical burdens」, 「Inability to be self-reliant」, 「The lack of social competitiveness」, 「Limited self-expression」ということがまとめられた。

○ 漢民族子どもへの評価（関係性と個人特質）

ポジティブな面では、漢民族の子どもがより自立できると評価した。ネガティブな面として、「The lack of education on respect for the elderly and children」, 「Self-centered」, 「Risks of relying on parents alone for childcare」が言及した。特に核家族における養育では、父親または母親の養育の質に依存しすぎて子どもの発達のリスクが大きいと強調した。

● 新型コロナウイルス自粛期間における子育て・家族生活

○ 母親としての女性

[パートナー] 隔離期間においてパートナーと会えないことに関して、普段何日も会えない時期があったので大きな違和感がなかったが、ウイルス感染のリスクで心配したという一般的な態度がみられた(90%)。また、隔離前後は旧暦正月の時期であったことで、パートナーが来られなく「Lack of labor helpers」ということも報告した。

[母系家族での生活] 普段とほぼ同様な生活パターンで過ごしたという答えが最も多かった。隔離中に、家族と一緒にカードゲーム（摩梭地域での一般的なエンターテインメントの形式）をやったり、家事をしったりしてゆったりした生活であったと言及した。ただ、人が多くなっていたため、以前よりご飯を作ることに對して工夫したと報告した。

[子どもとのインタラクション] 学校に行かずオンライン授業を取っていた子どもの学習に関して、自身の教育レベルの制限のため、指導することができなく特に心配したようであった。学校や教師における制御の必要性を改めて認識させたと報告した。また、子どもが父親と会えないことについて、ネガティブな影響を及ぼさないと評価した。その原因として、普段も祖父母による世話がなかったので父母に対する依頼が少ないことと、母系家族に多くの人が周りにいるのでそれによる感情的温かさが十分であると論じた。

[コロナ禍に関する考え] コロナ禍や隔離は暫時的であるということをはほぼ全員言及した。家族の健康と一緒にいる時間の大切さを感じられ今後とも重視していく気持ちを表した。

○ 母系オジ/父親としての男性

[パートナー] 隔離の期間内に、女性と同様にパートナーに対して大きな心配がなく、Wechat（ソーシャルメディア）を使用しコロナ感染防護や日常生活について交流した（週/3回の頻度が最も多かった）。

[母系家族での生活] 普段よく外で仕事していたため、隔離期間では家族と一緒に楽に過ごしたと報告し、家族と一緒にカードゲーム、家屋の整理や掃除をしていた。親と一緒にいる時間を多くなったことに対する楽しさを強調した。

[姉妹の子どもとのインタラクション] オジであっても普段多忙のためよく子どもと一緒にいる時間が多くなかったが、隔離の時に、甥や姪の興味などの個人的特徴や生活上の繊細な点を新しく知られたと報告した。

[実子とのインタラクション] パートナーの家族の人が子どもを世話しているのに対して不安したことがなかったという態度が一般的であったが、子どもと会えたかった気持ちも表した。また、1名の男性が子どもの学習に関する心配も強調した。

[コロナ禍に関する考え] 女性と同様に、コロナ禍は暫時的な困難であるとほぼ全員話した。女性と比べ、摩梭地域における経済（特に旅行業）の現状、及びこれからのできる仕事やお金に対する不安をより強調した。また、都市部の人は自給自足の生活ができないためコロナ禍で色々苦勞したと認識し、旅行業のほか、摩梭地域での伝統的農業を今後改めて重視すべきであると言及した。

○ 子ども

[母系家族での生活] 普段と大きな変化がなかったと報告したが、大人からより多くアテンションをもらったと感じられ、大人（特に母親）と多くコミュニケーターできて嬉しかったというのが一般的であった。ただ、全体的に、隔離中、シブリングと一緒に過ごした時間（遊び、家事など一緒にしていた）が最も多かったとも言った。

[父親と会えないことに対して] 父親の感染するリスクに対して心配していたが、普段でも時々2-3日会えないことも普通であったため、長時間に会えなかったことに対して特に不安などの感情がなかったと報告した。ただ、特に「Miss playing together with father」の気持ちも言及された。

〔コロナ禍に関する考え〕 ストレスや不安などの感情がほぼ表現しなかったとも言える。家族と一緒に過ごせることで楽しかったで、これからも「父母」と一緒にいる時間を大切にしたい考えを論じたが、早く学校に戻すこと、外で遊ぶことに関する意欲も表した。

## 【考察】

- 養育者に対する厳格な道德要求と期待
  - 養育目標・重視及び養育方法の中にも強調した摩梭文化に従う道德的発達、礼儀の学び、「無分別」のルールから示したように、摩梭人養育者としての道德的「負担」が大きいとも言える。インタビューにおける自己評価の部分も言及したが、摩梭人としての道德的プレッシャーが大きく、もし不適切なことまたは自己中心なこと（姉妹の子どもより実子に顕著に偏愛することを代表として）をすると、村の人に厳しく責められる。また、子どもに対して、目上の人への尊重と礼儀的表現が非常に強調され、社会の一員としての正直、利他的行動、社会的責任の実現という向社会的行動や価値づけをする傾向が見られた。このような道德的重視が具体的にどのように養育に反映され、またそれによって子どものパーソナリティ発達や養育者のウェルビイングにもたらす影響を検討することが可能である。
- 家屋価値に基づく個人価値の評価基準
  - 個人生活より、母系家屋における責任を優先することがごく一般的なこととして認められている。個人における独立性や価値づけが全くないというのは事実ではないが、制限のある独立性と母系家族に対する価値に基づいた個人価値という位置付けが言える。さらにどのように異なる家族ポジションにおける個人の価値を判断しているかについて検討したい。また、母系家族システムの中で期待される位置付けに合わせて個人の生活を調整するという高忠誠度のある「社会的学習」がどのように子どもの頃から伝達していたのかについて興味深い。
- 重視されてきた子どもの学校教育問題
  - 現代摩梭人の養育者として、次世代の学校教育問題を重要な養育問題になっているとも言える。子どもの学校成績及び高い教育履歴を徐々に重視してきたことと、養育者集団内（特に母親）の相対的に低い教育履歴との衝突がキーポイントとなる。よって、相対的に教育履歴の高い家族メンバー（父親も含み）の権威やその人と子どもの関係性パターンが以前の摩梭家族と異なってくる可能性がある。一方、多様化に欠けている子どもへの学校教育内容（例えば、核家族を標準型とする家族や婚姻のあり方など）も摩梭人の次世代の家族構造や婚姻概念にどのような影響が考えられるかについても議論できる。
- 摩梭人子どもの自立と自己表出・抑制
  - 摩梭人養育者の自己評価から見ると、共同養育者が周りにいる母系大家族において、子どもが独自に困難に直面する場合や機会が相対的に少なく、自立性の発達が遅い可能性がある。また、大家族内に人数が多いことで、一人の子どもに対して（子どもにとって特別な）1人または全部の大人から完全的な注意を提供できないことも（できる限り均等的に配る要求）考えられる一方、子どもが他人の気持ちや要求に敏感的に読んで反応することを強調されてきたので、自身の感情や要求に対してどのくらいうまく表出できるかという自己表出や抑制、制御のパターンについても検討できる。
- 摩梭人の複雑な父子関係性（女性・男性・子ども視点の異質可能性）
  - 母親としての摩梭人女性は相対的に父子関係や父親の役割の重要性を低評価する傾向があるとも言える。父親としての男性及び実子である子どもがともに、子どもと父親における遊び（特に身体的遊び）を高く評価し、父子間の遊びの具体的内容とその機能を検討する可能性があると考えられる。また、発達段階によって子どもがもっている父親の重要性に関する認識や父子関係の緊密性が異なる可能性（例えば、年齢増加につれて父親の重要性を低く認識する）とその要因も検討できる。
- コロナ禍における子どもの不安と共同養育の環境
  - 養育者と子どもが共にストレスや不安の感情に関する記述が非常に少なかった。母系家族における共同養育やその支援的システムがサポートし、コロナ禍による不安を緩和する可能性が考えられ、子どもと養育者の間にいかにお互いに安定させる感情をインタラクションしたのかについて興味深い。

## References

- Nongbri, T. (2010). Family, gender and identity. *Contributions to Indian Sociology*, 44(1–2), 155–178. <https://doi.org/10.1177/006996671004400208>
- Gong, B. & Yang, C.-L. (2012). Gender differences in risk attitudes: Field experiments on the matrilineal Mosuo and the patriarchal Yi. *Journal of Economic Behavior & Organization*, 83(1), 59–65. <https://doi.org/10.1016/j.jebo.2011.06.010>
- Mattison, S. M. (2010). Economic Impacts of Tourism and Erosion of the Visiting System Among the Mosuo of Lugu Lake. *The Asia Pacific Journal of Anthropology*, 11(2), 159–176. <https://doi.org/10.1080/14442211003730736>
- Mattison, S. M. (2011). Evolutionary Contributions to Solving the “Matrilineal Puzzle.” *Human Nature*, 22(1–2), 64. <https://doi.org/10.1007/s12110-011-9107-7>
- Suwa, T., Oppitz, M. & Hsu, E. (2000). Naxi and Moso Ethnography: Kin, Rites, Pictographs. *Asian Folklore Studies*, 59(2), 334. <https://doi.org/10.2307/1178929>
- 金縄初美. (2018). 中国少数民族の歌唱文化 —中国雲南省・納西 (ナシ) 族を例にして—.
- Hsu, E. & Oppitz, M. (1998). Naxi and Mosuo Ethnography. Kin. Rites. Pictographs (František Vrhel), 392.
- Liu, C. (2008). The Concept of "Jiawu" in Mosuo People. *Journal of the Central University for Nationalities (Philosophy and Social Sciences Edition)*, 03.
- Corbin, J. & Strauss, A. (1990). Grounded Theory Research: Procedures, Canons and Evaluative Criteria. *Zeitschrift Für Soziologie*, 19(6), 418–427. <https://doi.org/10.1515/zfsocz-1990-0602>